

閑運稲荷大明神 由緒

◇神亀二年(七二五年)伏見稲荷大社を神託により勧請し菅生稲荷大明神(祭神豊受姫神)として本殿に合祀。松平家初代親氏が勃興し明徳二年(一三九一年)社殿を再建。三代信光公の息子松平光義公の子孫が代々神主として明治まで奉仕され松平家代々の祈願所として尊崇するところとなる。四代親忠公もご尊敬の念深く子孫繁栄の為、菅生稲荷大明神の本殿を造営される。

◇大永3年(一五二四年)七代松平清康公は菅生神社に参籠、家運長運子孫繁栄を祈願、御神託を受けて菅生稲荷大明神の御分霊を祀り、岡崎城内に閑運稲荷大明神を祀られる。

〈清康公参籠されし時、詠まれた歌〉

冬枯れに残る常盤の色増して恵も深き神垣の松

〈当神社神主 松平光房の返歌〉

常盤なる色も替へて神垣の松と共に君ぞ栄えむ

◇天正十九年(一五九一年)岡崎城改築の折、神殿破却され菅生神社本殿に合祀。昭和五七年(一九八二年)菅生神社境内に社を建立

松平氏の繁栄

- | | | |
|----|------|-------------------------------|
| 初代 | 松平親氏 | 松平郷で勃興し周辺の勢力を征し勢力拡大 |
| 三代 | 松平信光 | 岩津松平家の祖、安城、岡崎にも勢力を拡大 |
| 四代 | 松平親忠 | 岡崎鴨田を根拠地として武功を上げ勢力拡大 |
| 七代 | 松平清康 | 町の基盤を整備、岡崎城を本拠に東三河に侵攻、三河を統一 |
| 八代 | 松平広忠 | 織田勢の三河侵攻に対して、今川氏を頼り対抗 |
| 九代 | 松平家康 | 三河一向一揆を鎮圧、後に東三河・奥三河を平定し三河国を統一 |

一五六三年 松平元康から家康へ改名 一五六六年 二十五歳の厄年に厄除閑運の御祈願をされ徳川家康と改姓、三河守の叙任

